

練馬区議会議員(無所属)

かとうぎ 桜子

区政レポート



2013年11月号

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX 03-3978-4158

HP <http://www.sakurako-nerima.com/>

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp



メールマガジン発行中!



(左)15種類のお米を審査しました。(右)受賞者の皆さん

福島で放射能ゼロの取り組みを進める地域と交流

11月2日、福島県天栄村に出かけてきました。この地域の皆さんとは、昨年の夏にとある勉強会を機に出かけて以来、交流が続いています。

天栄村は福島第一原発から約70キロの距離にあります。かなり離れてはいるのですが、それでも事故直後は空間放射線量が5マイクローシーベルト/時間となり、このままでは農業が続けられないのではないかと、農家の皆さんは絶望的な気持ちになってしまっていました。

もともと天栄村は、2007年に有志の農家で「天栄米栽培研究会」を作って減農薬・無農薬で味の良い米づくりにとり組み、コンテストではいつも受賞するほどの実力を持っていました。

そんな努力が、原発事故によって水の泡になりそうだったのです。そんな時、天栄村役場の吉成さんが、自分のこどもにも安心して食べさせられるような、放射能ゼロの米作りを頑張ろうと農家の人たちに呼び掛けて、絶望の淵から立ち上がりました。放射性物質を吸着する顔料の活用、肥料の工夫によって、土壌の放射性物質が農作物に移行しないよう努力を続けています。2011年から今年までの3年間、検出限界10ベクレルの機械で測って、ほとんどのお米で放射性物質が検出されていません。それに、とてもおいしいのです。

それでも、震災前に比べるとあまり売れなくなってしまうというそうです。今回、私は、こうした努力を続けている天栄村のお米のコンテストに審査員として呼んでいただき、参加してきました。

私はこのように、原発事故さえなければ済んだ苦労や努力を強いられている人たちとの交流を通じて、原発をなくしていきたいという思いを皆さんと共有したいと思っています。天栄村の取り組みについては今後もご紹介していきたいと思っています。

二〇一三年十一月

かとうぎ 桜子

来年2月、東日本大震災に関連するドキュメンタリー映画の上映会を行う予定です

2014年2月20日(木)午後7時 「犬と猫と人間と2」

2014年2月27日(木)午後7時 「逃げ遅れる人々」 飯田基晴監督のお話 ゆめりあホール(大泉学園駅北口)にて

参加費: 1本600円、2本1000円

かとうぎ桜子が代表を務める「市民ふくしフォーラム」では、上記の映画上映会を企画しています。詳しいご案内のチラシは現在作成中ですが、まずは日程のご案内です。ぜひご予定ください。

「犬と猫と人間と2」は、東日本大震災で津波や原発事故にあった犬や猫、牛などの動物たち、そしてその動物たちをなんとか助けようと奔走する人たちの様子を追ったドキュメンタリー映画です。104分。

「逃げ遅れる人々」は、東日本大震災で被災した障害のある人がどんな苦勞をしてきたか、お話を聞いたドキュメンタリー映画です。74分。

27日には「犬と猫と〜」でプロデューサー、「逃げ遅れる人々」では監督を務める飯田基晴さんに来ていただき、お話をうかがう時間も設けます。飯田さんは以前、「あしがらさん」という路上生活者のドキュメンタリー映画を作った監督で、かとうぎ桜子が学生時代、文化祭でこの映画の上映会をした時からのご縁があります。

どちらも重いテーマでありながら、私たちに身近な課題として考えさせられるとても良い作品です。年が明けたらまた詳しいご案内をしますが、ぜひご参加ください。

宮城県気仙沼へのカンパ、引き続き募集しています。

来年1月17日(金)、18日(土)の2日間、宮城県気仙沼に出かけてくる予定です。今回は気仙沼大島の民宿に宿泊し、その地にある高齢者デイサービスでのボランティア、仮設住宅の住民の方との交流、津波で流されてしまった牡蠣の養殖の再建に努めている方のお話をうかがう予定です。また、仮設商店街「南町紫市場」でのお買い物もしてきます。今後のレポートで結果のご報告をしたいと考えています。

気仙沼復興商店街「南町紫市場」へのカンパは引き続き募っております。ご協力いただける方は、「気仙沼募金」とご記入の上、以下の口座にお振込みください。

[郵便振り込み・口座番号]

00130-2-496362 市民ふくしフォーラム

かとうぎ桜子プロフィール

1980(昭和55)年生まれ。桐朋女子中学・高校、慶應義塾大学文学部を卒業。大学在学中にホームヘルパー2級の資格を取得、さらに福祉の勉強をするために上智社会福祉専門学校(夜間)に学ぶ。

NPOにて介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く関わることをめざし、2007年、区議会議員選挙に初挑戦、初当選。

2010年3月立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科を修了。

2011年4月、練馬区議会議員選挙で、2期目に当選。

議会運営委員会、区民生活委員会、医療・高齢者等特別委員会に所属。



障害のある人が地域で生活できる場が必要

以前、私の区政報告会に、障害のあるお子さんと一緒に暮らしている方がご参加くださり、お話を聞かせてくださいました。地域で暮らす障害のある人は多くの場合、親御さんなどのご家族と一緒に暮らしています。ご本人も親御さんもだんだん年齢が高くなってきて、高齢になった親御さんが障害のあるこどものケアをするのが困難になってくる場合もあります。（例えば、80代の親が障害のある50代のこどものケアをするなど）

その場合、障害のある人はどこで暮らすのか、とても大きな課題です。今回、議会でのこの課題についての区の認識をたどりました。

障害のある人が地域で暮らす場が少ない

現在、練馬区には区立の「福祉園」という、障害のある人のための通所施設が7つあります。ここは、障害があっても介護を必要とする人を対象にしており、昼間の時間帯、食事、入浴、創作活動などを行っています。この施設を利用して居る障害のある区民は現在330名。そのうち5名が「ケアホーム」というところに住んでいます。残りの人は家族と一緒に住んでいる場合がほとんどだと考えられます。

グループホーム・ケアホームというのは、入所施設とは違って、地域の中で家庭に近い環境で暮らす場です。最近では、認知症の高齢者のグループホームが多くできているので、そちらで耳にしたことのある人も多いかもしれません。高齢者のみならず、障害の分野でもこうした

た生活の場が作られているのです。ケアホームというのは、グループホームより障害の重い人を受け入れて居るところです。

障害のある人が親元を離れて暮らす場合、住み慣れた地域で家庭に近い環境のグループホーム・ケアホームで暮らすことができれば、家族とも会いやすいし、本人の主体性を大事にした生活ができるので望ましいのですが、まだまだ数が足りていません。特に障害の重い人を受け入れるケアホームの数はなかなか増えない状態にあることは、福祉園通所者の5人しかケアホームに住んでいないことから分かります。

では、親御さんが亡くなってしまったり、高齢で障害のある子のケアができなくなったときには、障害のある人はどうなるのでしょうか。

障害のある人や家族の困りごとの調査が不十分

では少ないけれど困りごとはある」という人の声を見落としてしまう危険性もあるからです。

アンケート調査以外の方法で、できるだけひとりひとりからお話を聞けるような体制を充実させる必要があると考えます。

障害のある人のふだんの声を政策に活かせるしくみづくりを

また、ふだん、障害のある人や家族が行政に相談した場合、相談窓口である福祉事務所や保健相談所の担当者がその人の「ケース記録」を作り、困りごとの解決のお手伝いをしています。

せっかくこうした記録があるのだから、個別の記録として取っておくだけではなく、「他にも同じ課題を抱えている人もいるかもしれない」という観点で、ケース記録に見られる課題の整理もすべきではないかという点も指摘しました。というのは、かとうき桜子が障害福祉に関する様々な課題について、「こうした困りごとを抱えた人は区内にどれだけいるか、行政は把握していますか?」と質問をすると、行政の担当者はいつも「それは、ケース記録をすべてひっくり返して、ひとつひとつ数えてみないとわかりません」と答えるのです。かとうきに聞かれるたびにケース記録をひっくり返しているな

現在、もともと区内に住んでいた障害のある人のうち、362人が区外の施設に入所しています。そのうちかなりの割合が都外。つまり、新幹線でないといけないくらい遠い場所にある施設に入っているということです。これでは、高齢の親御さんが会いに行くことさえめつたにできないですし、障害のある本人にとっても突然知らない地域にある知らない施設に入ることになってしまつという問題が起ります。

こうした問題を解決するためには、障害のある人の中で、「将来的には親元から独立して生活する場が必要」と考える人がどのくらいいるのかをまずは把握して、区内のグループホームやケアホームの整備に努める必要があります。

ところが練馬区は、障害者に関する計画を立てる際に、すべての障害者・家族の実態をつかんでいるわけではありません。

今回の議会では行政は、「練馬区の福祉事務所が、グループホームなどに入りたくて入れず待っている人と把握しているのは2,30人」と答えたのですが、これは保育園や特別養護老人ホームのように正確に待っている人を数えているのではなく

んで、あまりにも無駄だと思います。そうではなく、様々な課題についてははじめから個別の課題を全体の課題として把握するシステム作りが必要だと考えます。

現在の障害者計画は2014年度までのものなので、今年始まる基礎調査のほか、次期の計画作りに向けてこれから具体的な動きが始まります。その中で、引き続きこうした提案を続けたいと考えています。

グループホーム・ケアホームの現状と目標値

2012年度末	51か所、275室
2014年度末の目標	66か所、364室

2013年3月末 練馬区の各障害者手帳所持者数

障害種別	人数	うち、18歳未満
身体障害	19476人	492人
知的障害	4050人	1007人
精神障害	4494人	65人

また、行政が障害者計画を立てる際、「障害者基礎調査」というアンケート調査をやっていますが、これもすべての障害のある人やその家族からは意見を聞いていません。2010年度にとりまとめた調査の際は、障害者手帳の所持者のうち2割に対して調査票を送付しました。それも少ないのですが、今年中に実施する調査ではさらに減らして手帳所持者の1割にしか意見を聞かないというのです。

行政は、調査としては統計的にはそれで十分有効な結果が出るということ、アンケート以外にも当事者や家族の会から意見を聞くなど、別途、直接会って話を聞く機会を作っていきたいと答弁していました。

しかし、かとうき桜子は、このやり方は障害のある人たちのふだんの声を正確に捉える上で、きわめて不十分であると考えます。そもそも障害のある区民のニーズを「統計」としてしかとらえていない区の姿勢にも疑問を感じますし、「障害」と一口に言っても障害の種類や重さによって困りごとはまちまちですから、「人数と